

令和6年度

事業実績報告書

社会福祉法人寿楽園

令和6年度

総括

～持続可能な経営基盤の確立～

採用難や物価高騰の影響により、法人の経営環境は、厳しさを増しています。そのため、持続可能な経営基盤の確立が急務となりました。このような状況の中、横浜二期施設整備計画を中止し、敷地売却を実施しました。引き続き、10年、20年先の事業の在り方を見据え、財務管理を強化し、持続的な成長が可能な経営基盤の整備に努めてまいります。

～部会の再編・推進～

事業や課題の特性に応じて、拠点を跨ぐ「横軸の組織」として『部会』を再編成し、各拠点に存在する専門性の高い人財を部会長に任命しました。令和6年度の介護・医療・障がい福祉の制度改正に伴い、法令遵守および基準管理の標準化に取り組みました。また、各種指針やマニュアルのプラットフォーム化を推進しました。今後も、各拠点の課題を補完し合うとともに、先進的な取り組みを共有・活用することで、ナレッジマネジメントの推進を図ってまいります。

～サービス品質の向上と、効率的なサービス提供～

ケアの質向上に向け、科学的介護情報システム（LIFE）を基盤としたケアマネジメントの推進を進めました。また、温熱カー트를一部施設に導入、食事提供の効率化を図るなど、介護現場の「業務効率化+質の向上=生産性の向上」に取り組みました。また、カスタマーハラスメント防止対策として相談窓口の整備や研修等を実施し、風通しが良く、安心して介護業務に従事できる職場環境の整備に努めました。人事管理においては、給与体系の見直しを継続するとともに、管理監督職の階層を拡大し、責務・権限・能力に見合う適正な待遇を推進しました。

～「利用者・地域・職員にとって三方良し」法人運営を目指して～

レクリエーションや行事の再開・充実を図り、地域や家族との直接的な関わりを持つ機会を増やしました。今後も、法人が培ってきた「開かれた施設づくり」と「地域に貢献できる事業運営」に尽力し、職員一人ひとりが働き甲斐を感じられる職場環境を整備することで、「利用者・地域・職員にとって三方良し」の社会福祉法人運営を推進してまいります。